

## 2. 身近に森・里山がある生活を、どう思っていましたか？

### 四季を感じる

- ・ 季節の移ろいが目の前で感じられた（枯木に花<雪>、新緑、落葉、木の実）。一日が鳥のさえずり、穏やかな葉ずれの音、月光が葉を濡らし、深い森のにおいに包まれて夜がふける。ちょっとオーバーですが贅沢な自然がありました。
- ・ 緑の木々の間から昇る月、鳥たちの飛び交う姿、木々のにおい季節ごとの景色がとても良かったです。
- ・ 四季折々の花や鳥、動物が見られたこと。
- ・ 四季折々の自然は素晴らしく心の安らぎを感じました。
- ・ 家に居ながら、鳥カエル、虫、などの鳴き声、新緑の成長、どんぐりなどで四季を感じる事が出来た。

### 心の安らぎ・癒し効果

- ・ カブト虫やかみきり虫など自然が豊かだし、森・木がある生活は心が豊かになる。ストレス社会を生きる私たちにはとても重要！！
- ・ 近くに木々の緑があると気が安らぎ、小鳥・昆虫は心を和ませてくれる
- ・ 虫嫌いな私にとって、出会う機会が多いのは閉口し、秋に落ち葉がたくさん舞い込むのも困りましたが、蛙や虫の声、色々な鳥の姿などに癒されていた。森のたたくまいに安心感も有りました。
- ・ 近くに緑豊かな森が有るということは精神的に癒されていた。
- ・ 里山の自然が近くのあるというだけで、ゆったりとした気持ちでいられたと思います。
- ・ 広い範囲の緑が消えて殺伐とした感じがする。やはり、生活の周りに緑があると心穏やかになる。
- ・ 最初は中に入れるとは知らず、案内してもらって歩いてみたら、なんと幻想的で自然がそのまま残っていて中に入るととても気持ちが癒された。空気がきれいで、本当に別世界に来たような気がして、もうそんな場所が無くなってしまったことはとても残念です。
- ・ 周りに緑のある生活は気分的に良かった。
- ・ ストレスの多い現代社会の中で、里山が身近にある生活は、ゆったりとした気持ちになれた。この癒し効果は、住環境として非常に価値が高かった。

## 住環境としての魅力・身近な自然

- ・ 里山が有ったから、その環境に惚れ込んで引っ越してきた。名古屋市内にこんな緑と自然にあふれた所が有ったのかと驚いた。四季折々に朝な夕なに自然の移ろいを、五感で味わい素晴らしい環境を謳歌させてもらっていた。南東に広がるうっそうとした森から受けた恩恵は計り知れない。他人の土地ながら、里山を失った意味の重大さを切実に感じている。
- ・ 樹木に囲まれた自然環境が良かったので引っ越してきたのにとっても残念です。
- ・ 名古屋の中にこんなに木々の山のある、小鳥のさえずり、おいしい空気、がある環境に心から感謝し幸せに思っていました。森の中の動物たち、虫たち、草や木や・・・沢山の生命がたたれてしまったことを悲しく思います。
- ・ 家から沢山の木が見えてよかった。
- ・ 毎日付近を通るときに多くの緑が視野に入り自然が多く残るこの地に家があることを嬉しく思っていた。
- ・ 目の前に緑が広がりとても良かったです。
- ・ 自然が身近に。
- ・ 自然を感じる事が出来た。
- ・ 自然に触れ合う事が出来た。
- ・ 里山に居るという感じが有りました。
- ・ 緑が多いことは良い。
- ・ 里山が残っていた時は特に意識はなかった。
- ・ 無くなって判る緑地の有難さ。まだ眼下に見える緑は何としても守って行きたい。
- ・ 静かで空気がきれいな感じだったが、更地になってしまい残念です。この先住宅が増えると、車が多くなると思われるので子どもの通学に不安を感じています。

## 朝の気持ちよさ

- ・ 朝、鳥の声で目覚めていたことや、鶯の声で季節を感じていた。
- ・ 鳥の鳴き声で目を覚ましたり、目の前の緑の豊かさは時として山の別荘にでも居るような感覚にさせるものでした。これが無くなって少しずつ精神面にダメージが来そうで心配です。
- ・ 自然が豊かでめったに見れない鳥や虫が沢山見れて、空気が良くて朝の気分が良かったです。
- ・ 朝起きて窓を開けた時の空気の味がおいしくなくなった。

## 動物・生き物

- ・ 狸、ヘビ、蛙、ザリガニ、カブト虫、クワガタ虫、が生息し、散歩していても静かで空気も良かったです。子供たちも探検ごっこして遊んでいました。今年はウグイスが鳴かなかったように思います。
- ・ 戸を開けると、緑がいっぱい見えて初夏には田んぼでカエルの鳴き声がしたし、セミ、コオロギもいて季節を感じられたのに……。
- ・ 緑が見れて良かった。タヌキやキジが住んでいて自然を感じた。
- ・ 里山という自然を感じることができて今まではよかった。タヌキ、キジが時々いてうれしかった。

## 鳥のさえずり

- ・ ウグイスやセミなどが鳴き季節を感じられた。
- ・ 春にはウグイスが鳴き、朝夕に時々キジの鳴き声が聞こえ市内なのに自然の豊かさが有って、とてもステキな場所だと思っていました。
- ・ 春にウグイスの鳴き声が聞こえていた。
- ・ 春はウグイスの鳴き声が聞けましたが、来春は聞けますかねえ？
- ・ 鳥の声、木の四季の変化を身近に感じられた。
- ・ 鳥のさえずりが聞こえ、森からの風が心地よかった。
- ・ 緑があるのは自然が感じられてよい。地球温暖化のためにも良い。小鳥のさえずりが良かった。里山の木々があるのはよいが、手入れしてほしい（単に木々が伸び放題ではよくないと思う。）

## 涼しい風

- ・ 清い涼しい風が好きでした。子供たちに自然の良さ、大切さを伝えることが出来た。
- ・ ベランダの外を見ると四季を感じることが出来ました。特に夏は森を通過して来た風が心地よく夏場でもエヤコンを必要としませんでした。今では虫の声も少なくなり鳥の声も聞くことが出来ません。
- ・ 夏になると里山のほうから冷たい風が吹いて来て、とても気持ち良かった。近くに豊かな自然が有る生活を大変幸せに感じていました。
- ・ 冬は寒いけど夏が涼しく感じられた。また、景色を楽しんでいたのが少々残念。

## 子どもたちの体験・次世代に残したい自然

- ・ 10年前に千種から引っ越して来ましたが、毎年キジを見られ鳴き声も聞くことが出来ました。春は藤、つつじ、秋はススキ、トンボ、etc、自然そのものにビックリ。楽しく季節の変化を9歳、7歳、5歳の孫も興味を持ち喜んでいました。
- ・ 森、里山から四季を感じる事が出来る場所。いろいろな虫（セミ、トンボ、コオロギなど）カエルの声かして子どもが季節の移り変わりを知ったり、捕まえたり・・・。
- ・ 緑が無くなってしまった。子どもに自然を残すことが出来なかった。平針に昔ながらの里山が無くなってしまった。
- ・ 次世代を担う子どもたちにぜひ残したい環境だっただけに、里山の消失はとても悔いが残ることです。どうして守ることができなかったのか。子どもたちにどう説明すればいいのでしょうか？大人として、名古屋市民として、大変、愚かな選択をしたとしか思えません。恥ずかしいことです。
- ・ 植物で季節を感じる事が出来る。特に湧水の池は貴重で残してほしかった。
- ・ 生活に直接（目に見える）不便は感じませんが、里山が少なくなることは生態系や保水、温暖化等の自然に影響があると思われます。
- ・ こちらに引っ越してきた時も、緑の多い環境であったことも大きなポイントでした。また、このたび里山の問題が起きた後、すぐそばに有った里山の自然環境が、どれほど貴重なものであったかを、いろいろな専門家の方たちのお話を聞いて実感いたしました。世界中で環境問題が叫ばれる中、ましてやCOP10を行ったまさにその名古屋で、里山1つ守れなかったことはとても残念です。